

良性のポリープが「がん」になる可能性は？

消化器内科

腫瘍に分類されるポリープは良性が腺腫、悪性が「がん」と呼ばれますが、大きな腺腫はがんになる一歩手前の状態（前がん状態）といわれ、実際に多くの大腸がんは腺腫から発生すると考えられています。以前は、「腺腫は全て前がん状態である」と考えられていましたが、現在は、がんになるのは腺腫のほんの一部であることが分かってきました。ここでポイントになるのが腺腫の大きさです。大阪府立成人病センターのデータによると腺腫の直径が5〜9ミリでは7%、10〜19ミリになると24.6%、20ミリ以上では35.8%と、10ミリを超えると急激にがんを含む可能性が高くなると報告されています。また腺腫は、ある期間同じ大きさとどまり、ある時期から徐々に大きくなり始め、またその大きさとどまるというように段階的に増大していくとされています。しかし、どういった腺腫が

国吉 宣俊 さん
国吉病院 院長



将来大きくなつていくかを小さいうちから判断することは困難です。ポリープと無関係ながんもあり注意が必要です。